

SDGs とは、国連で採択された、すべての国や地域が 2030 年までに達成することを
目指して取り組む世界共通の目標のことで、17 の目標があります。



目標 13「気候変動に具体的な対策を」

～気候変動やその影響を減らすための対策を実施する～

現在、世界各地において、これまで経験したことのない猛烈な台風や局地的豪雨、干ばつなどの異常気象が発生しており、毎年約2億人もの人々が被災しています。こうした現象は、私たちの暮らしや経済活動の中で出される温室効果ガスによる地球温暖化（特に二酸化炭素が最も影響を及ぼしています）が主な原因と言われています。

日本でも、近年、豪雨や過去最大級と呼ばれるような大型台風により、全国各地で甚大な被害が発生しています。さらに、真夏日や猛暑日の増加により、自然環境や動植物、農作物にも大きな影響が及んでいます。

日本は、とても便利な国である一方、二酸化炭素の

排出量は世界全体の約3.4%を占め、中国、アメリカ、インド、ロシアに次いで世界で5番目に多く、しかも、そのうちの15.4%は家庭からの排出と言われています。

これからも、快適な暮らしを送れるよう、将来につなげられるよう、普段の生活の中で電気・ガス・ガソリンなどの使用量を減らす工夫に取り組むことで、温室効果ガスの排出を抑えることにつながります。

私たちにできること

- ・クールビズやウォームビズを実践する
- ・公共交通機関を利用する
- ・家電製品は消費電力が少ない(省エネ)タイプのものを選ぶ など

SDGs とは、国連で採択された、すべての国や地域が 2030 年までに達成することを
目指して取り組む世界共通の目標のことで、17 の目標があります。



目標 14「海の豊かさを守ろう」

～海や海の資源を守り、持続可能な方法で利用する～

地球の約70%を占める海は、地球全体の気候を調整するとともに、飲み水や食料（海産物）、貿易・輸送経路としても大切な資源で、私たちは、海からたくさんの恵みを受けて生活しています。

しかし、この豊かな恵みをもたらす海的环境は、私たちの出すプラスチックごみや排水などの影響により、汚染が進んでいます。こうした海の汚染の約80%は陸地からの影響と言われており、特に、プラスチックごみは、ポイ捨てされたごみが川から海へと流れ出し、世界中で年間約800万トンにもなるという試算もあります。

特に、四方を海に囲まれた日本は、さまざまな海産物をはじめ、多くの恵みを受けているにもかかわらず、

日本人1人あたりのプラスチックごみの廃棄量は年間約32kgに相当し、アメリカに次いで世界で2番目に多いとされています。

海のない小山市も「関係がない」とは言えません。海に影響を与えるプラスチック製品の使用をやめることや、環境にやさしい製品を選ぶことで、海の豊かさを守るとともに、その海で育った海産物を食べることで私たちの健康にもつながります。

私たちにできること

- ・使い捨てのプラスチック製品を使わない
- ・使い終わった油を流しに流さない
- ・環境にやさしい洗剤やプラスチックの材料を含まないヘアケア製品を使う
- ・川や海に行ったらゴミは持ち帰る など